令和８年度　自　己　評　価　表（中間）

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	現状値	目標値及び実績値		評価 （自己評価の結果）	改善策
				令和7年度	令和8年度			
主体的に考え、判断し、行動する力を育てる。	○言語力の向上による表現力の向上	・読書や読み聞かせ、新聞の活用、音読等、言葉に触れる機会を意図的に多く取り入れる。 ・朝会の発表、朝の会等のスピーチ、意見発表の投稿等、表現する場を積極的に設定し、評価する。	ルーブリックを基にした教師の見取り	―	目標	4段階で平均 3以上	・読書活動や新聞の活用等を通じて、計画的に言語環境を整え、言葉に触れる機会を十分に確保することができた。 ・表現力のルーブリックを意識した評価や、児童の学びを促す効果的なフィードバックを十分に実践することができなかった。	・NIE や MIM 等の実践を引き続き継続するとともに、児童の学習実態を的確に把握し、よりニーズに合った指導・支援へと発展させる。 ・表現力のルーブリックを軸とした授業改善を図るとともに、個別に応じた支援の場を積極的に設定し、児童の表現力の一層の向上を目指す。
					実績	2.5		
	○進んで学び、粘り強く挑戦する力の育成	・児童自身にもＡＡＲの学習過程を意識させ、自己調整力を育てる授業の工夫･改善を行う。	自己調整力に関する児童･教師の意識調査	4段階で 児童 3.3 教師 2.6	目標	4段階で平均 3.2以上	・児童の自己調整力が高まるような授業の工夫･改善を行うことができた。 ・教師質問紙の、「子どもたちが計画を立てる学習活動を取り入れる」という項目の数値が低かった。	・児童の更なる自己調整力の向上に向け、AAR サイクルの学習過程と中町小が求める５つの自己調整力の意識付けをしていく必要がある。 ・児童が計画を立てる学習活動を取り入れ、自己の学びを調整できるような授業を展開していく。
					実績	児童　3.4 教師　2.8		
豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く力を育む。	○豊かな心を育む教育の充実	・他者との関わりを通した自律を促し、レジリエンスを高める。 ・学校生活を楽しみ、よさを伸ばし合える集団づくりを行う。	児童意識調査 （学校が楽しい・自己肯定感）	92%	目標	95%	・職員研修を行い、日々の取組をレジリエンスの観点で再確認することができた。 ・いじめ撲滅月間に向け、各委員会や学級で仲間づくりの取組を行った。 ・体育朝会でリズム体操を紹介することで、楽しみながら運動する児童が増えた。 ・体力テストの目標値の掲示を見て、自分の結果と比較しながら次の目標を立てる児童の姿が見られた。	・日々の取組の成果と課題を交流し、情報を共有する。 ・取組の振り返りを行い、成果と課題を明らかにしていく。 ・取組を継続するとともに、体育科の授業や日々の生活に生かしていくよう働きかける。 ・取組を継続するとともに、運動のジャンルの幅を広げるようにしていく。
					実績	90%		
	○心身の健康のための取組の充実	・楽しく運動に取り組む児童を増やす。 ・児童が自ら進んでやってみようと思う運動を紹介する機会を設定する。	児童意識調査（運動は好きですか?肯定的評価） 体育朝会の実施	年間５回	目標	90%以上 年間６回以上		
					実績	93% ２回		
地域と一緒になって、安全・安心な学校づくりを推進する。	○コミュニティ・スクールの取組推進	・地域と一緒になって、誇れる学校、明るく楽しく活気のある学校、安全･安心な学校づくりをする。 ・課題・ビジョンの情報を共有し、効果的な学校地域協働活動を実施する。	めざす学校像に対する児童・教職員･地域（学校運営協議会委員）の肯定的評価	児童 93.7% 教職員 100% 保護者 92.4% 地域 86.7%	目標	95%以上	・学校づくりに対する評価はどの対象でも高くなっている。 ・学校運営協議会と連携し、カリキュラムの中に地域人材との連携を可視化できるようにした。	・学校運営協議会等と連携し、可視化したカリキュラムを評価・改善していくことで、地域学校協働活動の質を高めていく。
					実績	児童 95.7% 教職員 100% 保護者 94.2% 地域 100%		
	○働きやすさ、働きがい改革の推進	・教職員全員で、心理的安全性の確保された働きがいのある職場づくりに努める。	ワーク･エンゲージメント尺度 １か月の時間外在校時間 １年間の時間外在校時間	― 84% 15%	目標	36点以上 100% 45時間以下 360時間以下 100%	・36点以上は約65%で、30点未満が２名。特定の項目ではなく、全体的に低い評価になっている。 ・水曜日の早期退校も定着してきており、時間外勤務の削減は概ね達成できている。	・個々の評価の基準に違いがあるので、得点の低い職員には聞き取り等を実施し、必要な場合は手立てを講じる。 ・業務量が個人に偏らないように、分掌部で協働する。 ・これまでの取組を継続して行う。毎月45時間を超えないように見通しをもって取り組む。
					実績	36点以上 64.7% 45時間以下 92.3% 360時間以下 30.8%		